ランチョンセミナー 1

病院 DX で目指す変革
～クラウドがもたらす、病院経営と医療現場の未来～

◆日　　時：11月6日（木）12:40 ～ 13:30

◆座　　長：纓田　和隆　　株式会社ヘンリー

◆演　　者：林　太郎　　株式会社ヘンリー

共催：株式会社ヘンリー

座長

纓田　和隆（おだ　かずたか）
株式会社ヘンリー

略歴

2007 年、米テック系ニュースメディア CNET、ZDNet の日本展開をするシーネットネットワークスジャパン（現：朝日インタラクティブ）へ入社。通信・IT 系事業会社を中心に、リードジェネレーション広告の開発と販売など BtoB のマーケティング支援を実行。
2015 年 NewsPicks BrandDesign（広告事業）の立ち上げに参画、シニアマネジャー就任。営業戦略立案、広告商品の開発、チームビルディング全般を担当。2020 年から法人向け新規事業 “NewsPicks Creations” の立ち上げ、その後本部における新規事業開発部門を統括。
2024 年、クラウドネイティブ型電子カルテの開発をする医療 DX カンパニー「株式会社ヘンリー」入社、現在に至る。

演者

林　太郎（はやし　たろう）
株式会社ヘンリー　取締役/共同創業者

略歴

職歴

2011年	一橋大学卒業
2013年	ロンドン大学 SOAS 大学院卒業
2014年	楽天株式会社入社
2018年	当社を共同創業

2021年	クリニック向け電子カルテ「Henry」をリリース
2023年	病院向け電子カルテ「Henry」をリリース

1987 年埼玉県川口市生まれ。
学生時代、アフリカで日本の中古重機をレンタルする新鋭スタートアップで現地リーダーとして活躍。
一橋大学卒業後、楽天株式会社へ入社。楽天カード全体の SEO マーケティング業務や、楽天市場・楽天カードのビッグデータを分析しサイト改善を実施する。
2018 年、当社創業。プロダクト開発及び営業組織の組成に携わり、現在に至る。

趣味
漫画、小説、音楽/DJ、サッカー、お笑い

資格
メディカルクラーク

LS1

病院DXで目指す変革
～クラウドがもたらす、病院経営と医療現場の未来～

株式会社ヘンリー
林　太郎

2025年、我が国の医療費は50兆円を超えると見込まれ、制度の持続可能性に黄信号が灯っています。人口構造の変化や医療需要の増加により、「このままではもたない」という危機感が医療現場で広がっています。

一方、医療のデジタル化は十分とはいえません。2023年10月時点で200床未満の中小病院の電子カルテ導入率は59.0%にとどまり、導入コストや運用負担が大きな障壁になっています。厚労省は2025年1月、医療情報システムのクラウド移行を推進し、コスト効率と安全性を両立するクラウド型電子カルテが中小病院の有効な選択肢になると考えられます。

株式会社ヘンリーは2023年より、中小病院向けにクラウド型電子カルテ・レセコンシステムを提供しており、全国の療養・地域包括ケア・一部急性期病棟で導入が進み、業務改革や経営改善の成果が出ています。

ある病院では、クラウドベースのシステム活用により医師の宿直免除が承認され、働き方改革を実現しました。さらに医事課業務をクラウドでリモート処理・外部委託する体制を整え、雇用創出とコスト削減を両立しています。DX改革は単なる効率化にとどまらず、医療職の環境改善や地域医療の安定化にも波及しています。

中小病院は地域医療の最後の砦ですが、人材不足やデジタル化の遅れにより多くが運営に苦慮しています。ヘンリーはクラウド技術を起点に構造課題を解決し、日本の医療の持続可能性を高める新たな潮流を創出しようとしています。

医療費の限界が見える今こそ、現場発の変革事例から学ぶ好機であり、中小病院の経営や改革に携わる皆様の参加を期待しています。

ランチョンセミナー 2

令和 8 年度診療報酬改定の最新動向
～新たな地域医療構想を踏まえ、今からできる取り組み～

◆日　　時：11月6日（木）12:40 ～ 13:30

◆演　　者：山口　聡　　HC ナレッジ合同会社　代表社員

共催：株式会社ワイズマン

演者

山口　聡（やまぐち　さとし）
HC ナレッジ合同会社　代表社員

略歴

1997 年 3 月に福岡大学法学部経営法学科を卒業後、出版社の勤務を経て、2008 年 7 月より医業経営コンサルティング会社へ。医業経営コンサルティング会社では医療政策情報の収集・分析業務の他、医療機関をはじめ、医療関連団体や医療周辺企業での医療政策や病院経営に関する講演・研修を行う。2021 年 10 月、HC ナレッジ合同会社を創業。

・一般社団法人妻有地域メディカル＆ケアネットワーク　理事
・独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業アドバイザー（経営支援/実務支援）

LS2

令和8年度診療報酬改定の最新動向
～新たな地域医療構想を踏まえ、今からできる取り組み～

HC ナレッジ合同会社　代表社員
山口　聡

厳しい経営環境を踏まえ、骨太の方針 2025 に「公定価格の引上げ」とあるように令和 8 年度診療報酬改定では基本診療料での引上げが期待される。しかしながら、余剰病床の削減や新たな地域医療構想のはじまりといったイベントを控えており、 これまで以上に地域における医療機関の厳格な役割分担が求められ、診療報酬にも反映されることが考えられる。
また、本格的な人口減少が各地で起きる 2030 年以降に向け、全国医療情報プラットフォームの構築を目指す医療 DX の推進も重要なテーマとなっている。人口減少時代においては、医療 DX の環境整備による徹底した業務の効率化と負担の軽減が必須ともいえる。令和 6 年度診療報酬改定では、処方箋料が引き下げられたが、それは負担を軽減できる電子処方箋の導入が前提として考えられていたともいえる。すなわち、これからの診療報酬は医療 DX で効率化・負担軽減されることを前提としたものとなることが考えられるため、早期に医療 DX への対応が求められるともいえる。
本セミナーでは、令和 8 年度診療報酬改定に関する議論の最新動向を確認しながら、新たな地域医療構想や医療 DX といったその周辺の政策との関連性を知り、今後の医療機関の経営の方向性と今からできる備えについてご紹介する。

ランチョンセミナー 3

トータルケアで拓く慢性期医療
―口腔ケア・排尿ケアのポイント―

◆日　　時：11月7日（金）12:40 ～ 13:30

◆座　　長：橋本　康子　　日本慢性期医療協会　会長

◆演　　者：阪口　英夫　　陵北病院　副院長
　　青木　芳隆　　名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院　泌尿器科教授

共催：株式会社大塚製薬工場

座長

橋本　康子（はしもと　やすこ）
日本慢性期医療協会　会長

略歴

1981年	名古屋保健衛生大学（現 藤田医科大学）医学部 卒業
1981年	香川医科大学（現 香川大学医学部）第 1 内科教室 入局
1985年	米国インディアナ大学腫瘍学研究所 勤務
1988年	医療法人社団和風会 橋本病院 勤務
2000年	医療法人社団和風会 理事長 就任
2007年	医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院 開設
2020年	医療法人社団和風会 千里リハビリテーションクリニック東京 開設

日本慢性期医療協会 会長
慢性期リハビリテーション協会 会長
全国抑制廃止研究会 幹事
香川県抑制廃止研究会 会長
香川県女医会 会長
厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会 委員
厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会 介護分野の文書に係る負担軽減に関する専門委員会 委員
日本地域医療学会 理事
日本地域包括ケア学会 理事
在宅医療政治連盟 顧問
日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事
日本医師会 病院委員会 委員

社会福祉法人全国社会福祉協議会 評議員
BPSD の予防・軽減を目的としたチームケア推進に関する調査研究検討委員会 委員

演者

阪口　英夫（さかぐち　ひでお）
医療法人永寿会　陵北病院　副院長

略歴

学歴

1989年	東北歯科大学（現奥羽大学）歯学部　卒業
2014年	東京医科歯科大学（現東京科学大学）医歯学総合研究科　卒業 歯学博士

職歴

1992年	医療法人尚寿会　大生病院　歯科　勤務
2014年	医療法人永寿会　陵北病院　歯科診療部　歯科診療部長
2018年	医療法人永寿会　陵北病院　副院長

教育歴

1999年	東京医科歯科大学歯学部　高齢者歯科学講座　非常勤講師（兼務）
2005年	明海大学　歯学部　社会健康科学講座　口腔衛生分野　講師（兼務）
2006年	奥羽大学　歯学部　高齢者歯科学講座　講師（兼務）
2025年	福岡県立九州歯科大学　歯学部　生化学講座　講師（兼務）

役員
日本老年歯科医学会　理事　　日本病院歯科口腔外科連絡協議会　幹事
日本口腔ケア学会　評議員　　日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員
社会歯科学会　評議員

厚生労働省医政局　歯科衛生士の業務に関する検討会　構成員
日本歯科医学会 「口腔ケアに関する検討委員会」委員
日本老年歯科医学会　社会保険委員会　委員長
日本老年歯科医学会　歯科衛生士関連委員会委員
日本慢性期リハビリテーション協会　摂食嚥下委員会　委員長

資格
日本老年歯科医学会　専門医　指導医
日本口腔ケア学会　指導者

著書
『要介護高齢者の口腔病変アトラス（ヒョウロン・パブリッシャーズ，2023 年）』（単著）
『はじめて学ぶ非経口摂取患者の口腔衛生管理（医歯薬出版株式会社，2021 年）』（共著）
『解説 口腔ケアと摂食・嚥下リハビリテーション―基本から実践まで（口腔保健協会，2010 年）』（共著）

青木　芳隆（あおき　よしたか）

名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院　泌尿器科教授

略歴

学歴

1993　03	福井医科大学医学部卒業
2004　12	福井医科大学医学部大学院卒業、博士号取得

職歴

1993　05	福井医科大学医学部附属病院 研修医
1994　11	福井医科大学医学部附属病院 助手
1996　07	倉敷中央病院泌尿器科 医員
1999　04	中村病院泌尿器科 医長
2005　04	福井大学医学部泌尿器科学 助教
2015　03	福井大学医学部附属病院泌尿器科 講師
2022　04	社会医療法人寿人会木村病院泌尿器科 部長 福井大学学術研究院医学系部門看護学領域 特別研究員
2022　10	福井大学医学部非常勤講師
2024　09	名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院 泌尿器科 教授

専門医・認定医など：日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本排尿機能学会認定医、日本性機能学会専門医、日本女性骨盤底医学会専門医、日本がん治療認定医

所属学会：日本泌尿器科学会、日本排尿機能学会（代議員、ダイバーシティ推進委員）、日本女性骨盤底医学会（幹事）、日本老年泌尿器科学会（評議員）、日本性機能学会、日本癌治療学会、日本アンドロロジー学会、日本生殖医学会、日本メンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会（理事）、国際禁制学会、米国泌尿器科学会、欧州泌尿器科学会

国際研究チーム：
CLUE（Clinical Urology and Epidemiology）working group.（http://clueworkinggroup.com）

受賞歴
2006　第 13 回日本泌尿器科学会学会賞（基礎研究部門）
2008　第 21 回老年泌尿器科学会賞
2009　日本排尿機能学会河邉賞
2014　第 27 回北陸排尿障害研究会優秀演題賞
2016　第 29 回老年泌尿器科学会賞
　　（コメディカル部門、共同発表者）
2019　第 32 回老年泌尿器科学会賞
　　（コメディカル部門、共同発表者）

主な書籍
1. 泌尿器科の疾患・治療・ケア. 青木芳隆、常森寛行（監修）(2022). メディカ出版.
2. はいせつケア・リハ. 浜田 きよ子（著), 青木 芳隆（著), ほか. (2019). gene.
3. みんなで取り組む排尿管理 チームづくりから実践指導例まで. 鈴木 基文, 青木 芳隆（監修）(2018). JMP.

LS3-1

適切な食事形態の選び方
～摂食機能障害をもつ患者さんに対して～

医療法人永寿会　陵北病院　副院長　歯科医師
阪口　英夫

摂食嚥下障害をもつ患者さんに対応するとき、食事形態の調整は欠かせないものになっています。特に口腔機能に着目した食事形態の選定をおこなうことが重要であるといわれています。口腔機能は単に歯の有るなしではなく、複雑な咀嚼運動や舌運動、さらには食物の識別機能が正常に働いているかどうかも確認の必要があります。近年歯科領域で注目されている口腔機能低下症は、これらの機能が低下した状態であり、嚥下機能とも密接に関わっています。
摂食嚥下障害の患者さんに関わってきて、口腔機能に応じた食事形態を提供することによって、安全に経口摂取が継続できる事例をたくさん経験してきました。口腔機能を正しく評価するには歯科の専門知識も必要ですが、多職種連携を密にすることによって、その問題を解決に導くことが場合によっては可能になることもあります。
今回の講演では陵北病院でおこなっている多職種連携を紹介し、患者さんの口腔機能に合わせた食事形態の選定について解説したいと思います。

LS3-2

見直してみませんか？その「あたりまえ」の留置カテーテル ―自然排尿をめざす、親水性カテーテルという“やさしい支援”―

名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院泌尿器科
青木　芳隆

慢性期や高齢者医療の現場では、 長期の尿道カテーテル留置が「あたりまえ」となっていないでしょうか。確かに管理の簡便さやケアの効率性から選ばれがちですが、患者の尊厳や QOL、そして自然排尿への回復の機会を損なっているかもしれません。
本セミナーでは、こうした漫然とした留置管理を見直し、間欠導尿への移行、さらには自然排尿をめざす支援の視点を共有します。2011 年から私たちが看護師主導で取り組んできたクリニカルパスでは、急性期で抜去されなかった、あるいは抜去できなかったカテーテルに対し、残尿測定と間欠導尿を組み合わせることで、排尿機能の回復を“待つ”という実践を行ってきました。
この取り組みには、医師、看護師、リハビリスタッフが関わり、患者の状態に応じてケアのあり方を見直しながら、排尿自立へのステップを共に支えてきました。まさに、排尿ケアを「つなぎ・支え・託す」プロセスといえるでしょう。
さらに近年では、摩擦を軽減し、自己導尿の継続をより快適にする“やさしい支援”として、親水性コーティングカテーテルが注目されています。患者一人ひとりの可能性を信じ、次の一歩を支える排尿ケアについて、今、私たちにできる選択を一緒に考えてみませんか。

ランチョンセミナー 4

良質で効率的な
摂食嚥下リハビリテーションについて考える

◆日　　時：11月7日（金）12:40 ～ 13:30

◆座　　長：安藤　正夫　　医療法人金上仁友会　金上病院　院長

◆演　　者：北野　剛史　　医療法人社団和風会　千里リハビリテーション病院　言語聴覚士サブコーチ
　　中野　雅徳　　徳島文理大学　保健福祉学部口腔保健学科　客員教授

共催：日医工株式会社

座長

安藤　正夫（あんどう　まさお）
医療法人金上仁友会　金上病院　院長

略歴

1986年3月	弘前大学医学部卒業
1986年6月 ～1988年3月	東北厚生年金病院（現東北医科薬科大学病院）研修
1988年4月 ～1996年7月	仙台市医療センター仙台オープン病院　消化器内科
1996年7月 ～2002年9月	JR 仙台病院　消化器内視鏡センター
2002年9月～	医療法人金上仁友会金上病院（2007 年 8 月～院長）

日本慢性期医療協会常任理事
東北地方慢性期医療協会会長
日本消化器がん検診学会代議員
日本大腸検査学会評議員

演者

北野　剛史（きたの　たけし）

医療法人社団和風会　千里リハビリテーション病院　言語聴覚士サブコーチ

略歴

2003年	大阪音楽大学 音楽学部器楽学科卒業後、コントラバス奏者として活動を開始
2009年	大阪医専 言語聴覚学科卒業
	医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院、医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院を経て、今秋より、千里リハビリテーションクリニック東京に勤務

中野　雅徳（なかの　まさのり）

徳島文理大学　保健福祉学部口腔保健学科　客員教授

略歴

1970年	東京医科歯科大学歯学部卒業
1976年	東京医科歯科大学大学院修了（歯学博士）
1976年～1980年	長野県厚生連リハビリテーションセンター鹿教湯病院歯科医長
1980年	徳島大学歯学部歯学科　講師
1981年～2007年	徳島大学歯学部歯学科　助教授
2007年～2011年	徳島大学歯学部口腔保健学科　教授（2011 年～徳島大学　名誉教授）
2017年～2021年	徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科　教授
2021年～現在	徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科　客員教授

日本補綴歯科学会　　名誉会員
日本顎口腔機能学会　名誉会員

LS4-1

摂食嚥下障害スクリーニングの効率的運用と可能性について

医療法人社団和風会　千里リハビリテーション病院　言語聴覚士サブコーチ
北野　剛史

医療法人社団和風会橋本病院および千里リハビリテーション病院の摂食嚥下リハチームでは、 画像診断、嚥下造影検査、定期的な各種評価の結果に基づき、患者の全身状態や認知機能、さらには患者本人および家族のニーズを考慮して、個々の患者に適した訓練法や食形態を決定している。訓練法に関しては一定のガイドラインが示されているが、食形態の決定については、未だ明確に確立されているとは言い難いのが現状である。特に認知機能が低下している患者では、検査や評価時に十分な指示が伝わりにくいため、実際の能力を正確に評価できていない可能性がある。この度、徳島文理大学との共同研究で、従来から実施している摂食嚥下障害に関する検査（評価）に加えて、摂食嚥下障害のスクリーニングツールである聖隷式嚥下質問紙による評価を入院から退院までの1か月ごとに実施した。その結果、聖隷式嚥下質問紙の評価スコアはFOIS、改訂水飲みテスト、FIMと有意な相関があり、特にFOISとの関係において、経管栄養から経口栄養に切り替える上での参照基準になり得ることが示された。聖隷式嚥下質問紙の15の質問項目から他者による評価が可能な10項目を選択したSwallow-10は、認知機能が低下した患者を含む自答困難な対象者に対して、各種検査の代替となり得ることから、摂食嚥下障害スクリーニングの網羅性向上とリハビリテーションの効率的運用が期待される。

LS4-2

誰でもどこでもできる摂食嚥下のスクリーニング（Swallow-10）

徳島文理大学　保健福祉学部口腔保健学科　客員教授
中野　雅徳

摂食嚥下リハビリテーションは、「口から美味しく食べる」を支え、その後の患者の QOL を左右する重要な役割を担っている。良質で効率的な摂食嚥下リハビリテーションシステムの構築は喫緊の課題となっている。聖隷式嚥下質問紙はエビデンスに基づいた摂食嚥下障害のスクリーニングツールで、感度、特異度に優れ、嚥下障害のステージ（部位）を推定できるという特徴を有している。また、患者本人の回答が困難な場合には、家族や医療・介護従事者が、観察に基づいて回答することができる。演者らは、本質問紙のスコア評価法ならびに、改訂版として 15 の質問項目から他者の観察による評価が可能な 10 項目を選択した認知機能低下者向けの Swallow-10 を開発した。回答選択肢の重い症状 4 点、軽い症状を 1 点としてスコア化し、合計点数に対するカットオフ値が 5 点で摂食嚥下障害の可能性が高いとする評価法である。認知機能低下者に対しては、各種検査や評価が困難な場合が少なくなく、提供する食形態の決定を困難にしている。前講演で Swallow-10 は、摂食嚥下状態の評価の代替や食形態決定の参照基準になり得ることが示された。本講演では、良質で効率的な摂食嚥下リハビリテーションの構築を目指し、多職種間での情報共有を容易にする直接入力フォームなどを提示する。なお、スコア式の聖隷式嚥下質問紙の pdf ファイルは日医工株式会社の HP からダウンロード※できる。
※https://www.nichiiko.co.jp/medicine/swallow/data/score.pdf